

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、どの問題も最後まで解こうと努力した生徒が多かった。選択式や短答式の問題の正答率が高いが記述式問題の正答率が低い。自分の考えなどを言語化することに苦手意識をもっている生徒が多い。
 ○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「読むこと」、数学では「図形」、英語では「書くこと」に関する問題の平均正答率が低い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○個々の課題や習熟度に対応するためのICT機器の活用が必要である。
 ○基礎・基本の定着を図る。
 ○授業内における振り返りの時間が十分確保ができていない。
 ○言語活動の充実を図り、様々な場面で自分の意見をまとめ、発表する機会を設ける必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○生徒一人ひとりの確かな学力の向上を図るために、読み解く力の向上に重きをおいて授業展開、教材開発を推進する。
 ○課題解決学習・協働学習への取り組み、学習成果の発表を通してより深い学びの実践を目指すとともに、言語活動の充実を推進する。
 ○広く社会に目を向け、自ら学ぼうとする生徒の育成のために、特別教科・道徳の授業を充実させ、教科書やそれに変わる読み物資料および道徳ノートを使った授業を確実にを行い、適正な評価をする。
 ○学習した内容を定着させる家庭での学習の習慣化を図るために、朝学習の実施など、自主学習の習慣をつけさせる効果的な取組を検討し、主体的な家庭学習の実施を呼びかける。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等で、問題解決型・探究型の授業を目指し、ねらいの設定・振り返りを充実させる。 ○ペアや小グループ等の学習形態を工夫し、ICT機器や思考ツールを効果的に活用しながら、意見集約や課題提出の授業を推進する。	○各教科において、「書く」「話す」の機会をできる限り設け、自分の考えや要点をまとまりのある文章で表現させる。 ○比較して考察させる場面設定を行い、読み解く力と思考した内容をアウトプットする力を育成する。	○教科の知識や技能を活用させる課題を与え、教科の内容を発展させる。 ○他者と協力し、教科で学んだ知識や技能を用いて一つの課題に取り組み、発表する場を設ける。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○4月に本校での授業公開を実施。 ○10月に、学びのエリアの小学校2校で隔年で連携授業を実施するために、夏季休業中に、指導案検討会を本校で行い、小中一貫教育の充実を図る。	○各学年の「総合的な学習の時間」の単元に対し、各教科において、「ねらい・学び方、問題解決・情報収集・表現」等、教科書の配列表を元に年間指導計画を作成する。 ○各学期や学びのエリア研修会等、区切りのよい場面で指導内容の振り返り、組み直し等を行う。	○デジタル教科書をはじめ、各教科において、電子黒板を有効活用し、視覚的に授業内容を理解できる授業展開を行う。 ○タブレットPC（クロムブック）のミライシードやクラスルームを活用し、生徒一人ひとりがICT機器に慣れ、使いこなせる環境をつくる。